



活動の三本柱

推進員は、学校と地域が連携・協働して行うさまざまな活動をコーディネートします。

学校支援

学校が教育活動を行うときの困りごとをサポート

- ・家庭科授業のサポート
- ・福祉体験
- ・職業講話 など

家庭教育支援

子育てについて、保護者同士をつなげる活動をサポート

- ・くまもと「親の学び」プログラムの活用
- ・スマホの使い方講座 など

ふるさと「氷川学」

町の文化・歴史・産業などを学ぶ活動をサポート

- ・古墳見学
- ・干拓の歴史
- ・ふるさとのおやつ作り など

- ① 音楽の授業の一環で雅楽の生演奏をコーディネート。実際に見たり聞いたりすることで、より理解が深まる
- ② 家庭科の授業ではミシンの使い方をサポート
- ③ 地域の愛好会による押し花体験教室
- ④ 総合的な学習の一環で特産品の梨を収穫体験。後日梨ジャム作りも
- ⑤ 町探検の一環でイチゴ農家さんにインタビューする子どもたち

を依頼し、地域と学校が一緒に行う活動をコーディネートします。推進員の3人は、「協力者にお礼を言おうと、『子どもたちから元気をもらった』、『役に立ててうれしい』と逆にお礼を言われることが多いんですよ」とうれしそうに話します。

また、町独自の活動であるふるさと「氷川学」は、地域人材を活用して町の文化・歴史・偉人・産業などを学ぶもの。ふるさとへの想いを育むこの取り組みは、まさに地域の教育力の賜物と言えるでしょう。

これら地域学校協働活動を推進することで、学校は地域資源を活かした効果的な教育ができるようになり、子どもたちは地域住民とふれあうことで見守られていることを実感します。そして地域の人は自分が必要とされていることを実感し、地域コミュニティの活性化につながります。

もっと多くの人に「緩やかなネットワーク」に入ってもらいたいと願いながら、推進員さんは今日も活動をコーディネートします。

住人十彩

2022 February

#22 ~氷川町地域学校協働本部~



今回は、地域学校協働本部の取り組みについて、推進員の古閑由美さん(左)、宮村惇さん(中)、山村博美さん(右)にお話を伺いました。

地域と学校をつなぐ 「コーディネーター」

地域と学校がパートナーとなり、地域全体で町の未来を担う子どもたちの成長をサポートする「地域学校協働活動」。推進員の3人は、その活動をコーディネートする役割を担います。

この活動が始まった背景は、1月号で紹介したCS(コミュニティ・スクール)と同じく、複雑・多様化する社会の変化に対応するため。氷川町は県内でもいち早く活動を始め、今では地域学校協働活動とCSが車の両輪のように連携・協働した取り組みが行われています。

「地域からの支援は年々増えるんですよ」と誇らしげに話すのは、立ち上げ時から活動に携わっている宮村さん。

学校からの支援依頼は、授業補助や体験活動の調整、校外活動の引率サポートなど多岐にわたりますが、推進員は、地域の人や事業所、各種団体などの「緩やかなネットワーク」を使って協力